



地域なんでも情報局

第4号

平成23年9月1日発行

長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281

竹林整備の風景



初めての、のこぎり体験！

竹でつながる、地域の輪

皆さんは孟宗（もうそう）竹をご存知ですか？市内にも竹林はいたる所があり、実際に入ってみると枯れ竹が散乱したりと竹山は荒廃しています。孟宗竹は繁殖力が旺盛で、整備を行わないと生活に支障がでることもあります。里山を持続的に整備していくことは環境を守っていく上で重要な活動です。

みなさんのお住まいの地域でも人の手が入らずに里山が荒廃しはじめている所もあるのではないのでしょうか？

市社会福祉協議会では昨年より里山整備をきっかけとして地域に学び場を作り、これに関わる様々な団体のネットワークを構築しようという活動をはじめました。題して「へんちくりん」。名前の由来は「変えよう竹林」と「へんちくりんな人たちの集まり」という意味で昨年度は深堀大籠地区・田手原地区の竹林整備を行いました。中心になるのは総合科学大学の環境学部の学生たちで構成されたグループの「竹取物語」。彼らを中心に「学童保育元気つ子クラブ」、「白木自治会」、「舞岳木楽窯（ボランティアグループ）」、「長崎グリーンヘルパーの会」など様々な団体がそれぞれの力を持ち寄って活動を行いました。

炭焼き体験



この活動では、地域のみなさんやボランティアグループのみなさんが持っている技術・知恵を大学生に伝え、大学生が子どもたちに教えるといった相互に支え合う学びの場が地域の中に生まれています。この活動をとおして子どもたちと地域の人が顔見知りになり、道で会ったあいつをしたりと今までなかった風景が地域の中に見られるようになり、また、出来あがった竹炭を障がい者施設で加工し販売をするなどの活動に広がりも見られます。今年度は田手原地区の民家を拠点にして、地域の子ども達と一緒に夏休み木工教室やそうめん流し大会を行いました。また、民家に地域の人たちが自由に出入りできる高齢者サロンを開設する予定になっています。

木工教室



ベンチを作りました！

全長40メートルの

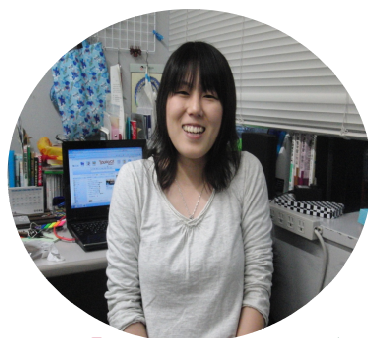
流しめ



学童保育元気つ子クラブで40メートルのそうめん流し大会が開催されました。このそうめん流しは「へんちくりん」の活動の一環で、前日から大学生や地域の人達と竹山に入って、竹の切り出し、ふし取りなどの準備を行い、当日は早速子ども達が一列に並び、圧巻な景色の中、上から流れてくるそうめんを必死にすくう子ども達の表情が印象的でした。



竹林整備活動「へんちくりん」に参加して
「へんちくりん」代表
生月 菜々子さん



最初は私自身が実際にどのような手順で進めたら良いのか、また他の団体の方とどういう連携を取れば良いのかわからない状態でした。しかし、活動の回数を重ねるごとに、周りの方々を見て気づいたことがあります。一つは、参加している学童の子供たちが地域の方に竹の切り方を教えてもらったり、自分の背丈よりも大きい竹を協力して一生懸命運んだり、すごく楽しそうにしているということです。素直なぶん、何か新しいことを学ぶ楽しさを感じることが出来るのだろかなと思います。あともう一つは、地域の自治会の方々の技術や経験です。自治会の方々は、技術と経験を思う存分に生かして、テキパキと仕事をこなす姿がステキでした。これらを通して、この両世代の間にいる私たちだからこそ、この活動を通して学べるものがありました。それは、素直さと経験です。この二つを感じることが出来たことで、世代間を通じての様々な面において人とのつながりが自分の中で強くなりました。これからも、この活動経験を生かしていろんな人達と活動を行っていききたいです。

学童保育 元気つ子クラブ
4年 倉田 陵平君



初めての竹切りでのこぎりとかを使ったこともなかったので緊張したけど面白かったです。切ったりするのは大変だけど、地域のおじちゃんや大学生のお兄ちゃんたちに色々と教えてもらえるのでためになりました。これからも続けてみたいです。竹切りサイコー。



これから社協も地域にあるたくさんの団体と協働しながら地域の輪を広げていく活動に協力させていただきます。考えています。

新たに何かを始めるとなると大変ですが、地域で解決しようとしている課題に他団体が加わることで、意外な広がりを見せるかもしれません。お住まいの地域でこのような活動に興味がある方は社会福祉協議会ボランティア室（☎829-11125）までご連絡ください。

鶴の尾朝市



朝市という名の青空サロン

鶴の尾団地自治会（東長崎地区）

生産者と消費者とが一定の場所に集まって交換取引をする機会や場所を「市（いち）」、といいますが、とりわけ市内外を問わず全国津々浦々でこの「市（いち）」が開かれています。一方、高齢化社会の進展や大型商業施設の進出により地域の小売店が年々姿を消す中、日常生活の買い物に困る高齢者も増えています。今回は、鶴の尾団地（東長崎地区）で今年から始まった朝市をご紹介します。鶴の尾団地自治会では、平成21年4月に退職者を中心に『助っ人隊』を結成し、主に一人暮らしの高齢者の網戸や障子の張り替え、庭木の剪定や家具の移動など、日常生活上のちょっとした困りごとのお手伝いを行う活動を開始しました。その活動の中で、買い物に困っている高齢者の存在や、今後も買い物に関する需要が増えてくるのではな

いかということ、自治会で対策を協議しました。近隣のスーパーに移動販売の交渉をしたり、野菜の無人販売など様々なアイデアが出された中で、「朝市だったら単に買い物（支援）だけでなく、住民同士の交流の場になるのではないか？」という意見から早速活動を開始しました。普段、子ども達が元気に遊ぶ団地内の公園（鶴の尾団地中央公園）が毎月第3火曜日の午前中に、朝市という名の「青空サロン」へ



売り子の冗談に、思わず笑いも飛び出す

と変貌します。朝市に並ぶ商品（主に野菜類）は、町内の住民が自分の畑で丹精込めて作った無農薬野菜が中心。1袋100円〜150円程度と値段も手頃です。品物を選びながら、「この野菜はこうやって食べたらいいかよ！」「といった料理方法についての話や、「今日は〇〇さん来てないね？」といった安否を気遣う話など様々な話題が飛び交っています。そんな朝市の雰囲気、一人また一人と朝市が開かれていく公園に吸い寄せられるように人が集まってきて、公園のあちこちで井戸端会議が始まっています。重い荷物を持ってない方には配達の手配も利用される方にも大変好評のようです。「ベンチを置いたり、お茶やコーヒーの販売をすることでもっと交流が深まるかもしれないね！」と山口自治会長（兼「助っ人隊」代表）はさらなる展開を考えておられるようです。地産地消や買い物支援、そして住民の交流の場づくり、この他にもこのような朝市を地域福祉という視点で見つめると様々な可能性があるのかもしれないですね。皆さまのお住まいの地域でも朝市をはじめませんか？

市社協戸石支部（以下、「戸石支部」という。）では、パークタウン、牧島地区、船津地区の3地区それぞれで高齢者サロンを実施しています。戸石支部では、この3つのサロンの交流を兼ねて年1回合同でサロンを開催しているのですが、今年は、先ごろ牧島公民館にて、「ふうせんバレーボール大会」が開催されました。当日は、時おり雨が降るようなあいにくのお天気でしたが、40名ほどの方が集まり、普段は広く感じる公民館も、今日ばかりは狭く感じました。大会は、6名が1チームとなり、

3地区サロン交流ふうせんバレーボール大会



汗をかいた後のご飯は美味しい！

チームの名前も「ひまわり」「あじさい」「ばら」など、花の名前にちなんだかわいいチーム名で、計6チームで行われました。大会が始まると、さすが日ごろサロンで体を動かしている皆さんだけあってふうせんを追う顔は真剣そのもの！ゲームは、コートの中に並べた椅子に座ったままで、ふうせんを相手コートに打ち返すルールだったのですが、白熱するあまり椅子から転げ落ちる人までおられました。幸い一人のケガ人も無く大会は無事終わりましたが、今回参加された方たちの中には、今年100歳になる男性もいて、改めて戸石にお住まいの高齢者の方の元気に驚かされました。大会終了後は、皆さんで一緒にお弁当を食べて楽しいひと時を過ごしました。

チームの名前も「ひまわり」「あじさい」「ばら」など、花の名前にちなんだかわいいチーム名で、計6チームで行われました。大会が始まると、さすが日ごろサロンで体を動かしている皆さんだけあってふうせんを追う顔は真剣そのもの！ゲームは、コートの中に並べた椅子に座ったままで、ふうせんを相手コートに打ち返すルールだったのですが、白熱するあまり椅子から転げ落ちる人までおられました。幸い一人のケガ人も無く大会は無事終わりましたが、今回参加された方たちの中には、今年100歳になる男性もいて、改めて戸石にお住まいの高齢者の方の元気に驚かされました。大会終了後は、皆さんで一緒にお弁当を食べて楽しいひと時を過ごしました。



お知らせ

あの人！どんな人！こんな人！

前田 桂子さん 若竹町



前田さんは、若竹町に在住で、長崎市内ではめずらしい自宅を開放しての「ふれあいいきいきサロン」「ゆうゆうクラブ」を運営しています。その他にも、いくつかの高齢者施設でボランティア活動を行ったり、市の食育推進委員や介護予防ボランティア（あじさいサポーター）等としても活躍しています。ボランティア活動に興味を持ったきっかけは、退職後、約10年間オーストラリアのメルボルンで生活を送っていた時に、メルボルンの友人から「仕事をやめた後、のんきに過ごしたい近所のお年寄りの方々が、一人二人と次々に施設に入ってしまい、「これじゃあ、いけない。みんな、住み慣れた地域です」と暮らしていきたくないと思うのが当たり前ではないだろうか？」と私にはあじさいサポーターだけど、自分の身の周りの方たちに何もしてやれないのはサポーターって言えない！」と思い、自分の家に来ていただくことが閉じこもりの防止や、淋しさの解消につながり、出来るだけ長く、住み慣れた地域で暮らしていけるようにお手伝いが出来ればという思いで、自宅開放型のサロンを始めたいということでした。サロンの内容については、「ここに集まる方々の年齢は、だいたい75歳くらいで、それぞれに今まで生きてきた人生を持っていらつしやる。自分を活かしていると言う瞬間や実感というものを持っていただきたい。」と思つて、それぞれが活躍出来る場があるような内容を心がけているそうです。最後に、前田さん自身は、「ここを続けられるのは、あと10年くらいかなあ？」と思つておられるそうですが、「皆さんここに来ることをとても喜んでくれてるので、自分自身がいつまでも健康でいて、このサロンを出来るだけ続けていければと思つています。」とのことでした。



アットホームな雰囲気

【第3回ランタナ祭り】

市民活動団体のネットワーク化を進め、市民活動の活性化を図ることを目的として開設した市民活動センター「ランタナ」。「ランタナ」では、「ランタナ」と市民活動団体を広く市民の皆様知っていただくため、市民活動団体と協働して、「第3回ランタナまつり」を開催します。当日は、市民活動団体の活動内容がわかる展示の他、出店、ビンゴ大会などを行う予定です。入場無料。どなたでもご参加ください。

日 時 9月23日（土）午後1時〜5時
場 所 市民活動センター「ランタナ」（馬町21-1）
問合せ先 市民協働推進室（☎ 829-1125）